

日 時：平成 30 年 12 月 20 日（木）18 時 30 分 ～20 時 05 分

場 所：岩館地区構造改善センター

対象地区：岩館

参加人数：17 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○宅地開発について</p> <p>（市民から）</p> <p>大坊小学校の現在の児童数は、60 数名しかいない。昔は 1 学年 70 名近くの在校生がいたが、今後は増える要素がない。町会の世帯数も 100 件前後であり、減少傾向にある。</p> <p>この辺りは優良農地であり、農地法の関係から大規模開発は難しいと聞いているが、国、県などに要望をしながら、小規模でも良いので宅地開発はできないか。高速道路のインターチェンジも近く、利便性が良い場所なので開発をしてほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・大坊小学校区でも子どもが少なくなり、今年度の在校生は 61 名、2・3 年生は、複式学級で学習している。住宅団地を造るには農地法の制約が出てくる。この地域は平川二期土地改良事業の範囲に入っており、事業終了後 8 年間は開発できないこととなっている。また、優良農地でもあることから、簡単には開発ができない。以前、運送会社から大坊地区に配送拠点施設を作りたく、開発したいと相談されたことがあったが実現できなかった。・既に建っている家屋と家屋の間に田畑がある場合には、その田畑に家を建てられるようにはなっているが、一度に何件も建てられないので民間業者も開発しにくいと思う。苗生松や松崎地区では、民間業者による宅地開発が進んでいるが、大坊、岩館地区では民間業者による宅地開発が進んでいない。
<p>○路線バス廃止について</p> <p>（市民から）</p> <p>岩館地区ではバスが通らなくなり、市の中心部から離れていっていると感じる。バスが無くなり、お年寄りも大変な思いをしている。どうしてバスが通らなくなったのか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・岩館、原田、大坊地区は、石川、乳井等を通って弘前市内へとバスが走っていたが廃止となった。利用者数が少なくなり路線を維持できなくなったとして、弘前市で路線廃止を決定したことに起因している。弘前市では石川、乳井へはデマンドタクシーでの対応をしている。・新本庁舎が完成するまでには、平川市内のバス路線を変えなければならないと考えてお

り、市民の皆さんの意見も伺いながら新たな路線を決めていきたい。

- ・高齢者の足の確保は重要である。尾上駅と弘前駅を結ぶバス路線が廃止となり、日沼地区でもバスが通らなくなった。日沼地区はデマンドタクシーの運行により、足を確保している。また、浅瀬石から金屋、南田中地区を通るバス路線についても、バス会社より廃止するとの話があったが、黒石市からもこの路線を残してほしいとの要望があったことから、1日3便に減便にはなったが路線が維持されている。この路線でも休日に限り、デマンドタクシーの対応をすることとしている。
- ・新本庁舎ができることを機会に、市民の足をどのように確保すればいいか検討していく。

○水道事業民営化について

(市民から)

改正水道法が成立し水道料金が増額になるなどと報道されていたが、平川市では水道法改正を受け、民営化などの話し合いはしているか。

(市民から)

水道事業が民営化となれば、利益追求で料金は上がると思う。例えば、民営化後、配管工事をしたことにより、利益を追求することから直ぐに利用者の料金に跳ね返ることとなれば非常に困る。

(市から)

- ・平川市では、浅瀬石川ダムから取水している津軽広域水道企業団から水を得ている。企業団の中では、改正水道法の成立を受けて民営化になるなどとの話は出ていない。民営化した方がよいとの声が強くなれば、民営化も必要だとは思いますが、安定した水を供給できるか、また、民営化により水道料金はどうなるのかなどの課題がある。
- ・市の水道事業でも水道管が老朽化してきており、一度に改修するとなると莫大な経費がかかる。主要管路だけでも計画的に耐震化を図っていきたいと考えている。現在の企業団であっても、今後は施設の更新や管路の更新が必ず出てくる。その時には、少しずつ料金が上昇することは想定される。
- ・平川市では、当初、企業団から水を買入れる際に、人口増加を見込んだ数量で契約を結んでいる。現在は人口減少していることから、実際に使用する量よりも多くの水を買っている状況である。長期契約を結んでいることから、直ぐには解消できない。
- ・津軽広域水道企業団では、報道にあるコンセッション方式は考えていないとのことである。市では企業団から、飲める水を買ってきて、金屋、新屋地区などにあるタンクに貯めてから、各家庭まで送水し料金をいただいている。
- ・老朽化している全ての水道管を更新するとなると何百億円もかかる。学校や庁舎周辺を耐震化しようと計画しているが、予算が関係することから、どのくらいの期間で事業実施するか検討している。

○農道補修について

(市民から)

凸凹している荒れた農道をグレーダーなどで削り、ならしてもらいたい。

(市から)

- ・中山間地域では中山間地域等直接支払交付金、岩館地区などの平場では多面的機能支払交付金が、市の会計を通して各町会に交付されている。町会によっては、この交付金を活用し、砂利などを敷いて農道補修をしている。地域住民の皆さんで、協力してやっていただきたい。

○財産区有山林への経路について

(市民から)

毎年、春に雪害被害調査のため、古懸地区にある山林に行っている。現場に行くまでの林道は横枝が伸び放題であり、やっとの思いで現場まで行っている。岩館財産区有の山林に隣接して、原田財産区や石郷財産区の山林があるが、数年前、重機を運んで伐採したようである。どのルートを通れば、苦勞せずに現場まで行けるか知らせてほしい。

(市から)

- ・4年ほど前に、原田、石郷地区で皆伐した山林だと思う。以前、現場まで自動車で行ったことがある。ルートとしては3ルートほどあったと記憶している。後日、総務課か農林課に来ていただきたい。地図にてルートをお知らせできると思う。

○庁舎建設延期の影響について

(市民から)

庁舎建設が1年延びたとのことであるが、合併特例債への影響はあるか。また、庁舎建設で合併特例債の算定率は、70パーセントくらいか。

(市から)

- ・合併特例債の期限は、以前は平成32年度までであり、庁舎建設も32年度までに実施したいとのことで計画していた。しかし、国会議員発議により期限が5年間延長となったことから、庁舎建設を1年延ばしても合併特例債への影響はない。合併特例債の算入率は68パーセントであり、約7割が国から交付税として入ってくる。
- ・今年10月に立てた財政運営計画では、平成30年度末で基金残高は97億円の見込みである。庁舎建設時期がずれ込むので計画の数値も動くこととなるが、平成35年度末では68億円の基金が残る見込みである。また、この他に土地開発基金として11.6億円は残るという試算である。

○企業誘致について

(市民から)

市で企業誘致を進めてはどうか。

(市から)

- ・大きな企業に来てもらうまとまった土地が、市内には無い状況である。人口は減っているが、住宅は増えている。平川市に住んで、弘前など市外で仕事をする人が増えており、ベッドタウンのようになってきている。市内に土地があるので、是非、平川市に来てほしいという形での企業誘致はしていない。

○文化に対する行政の考えについて

(市民から)

今年一年の平川市の文化について考えると、明るい一年であったと感じる。日本子守唄協会の代表を平川市に迎え、子守唄と津軽の昔話をテーマに平成の寺子屋の事業として開催した。当初40名の参加者数を見込んでいたが、90名くらいの方々に参加をいただき大成功であった。また、11月の市民文化祭では、シャンソン歌手によるショーも開催し、こちらも大成功であったと感じている。

文化協会、教育委員会など、いろいろな団体の連携が大事だと思っている。文化協会としては、今年一年いい年であったと思っているが、行政では文化をどのように考えているか。文化的な人を育てることも必要と考えるがどうか。

平川市文化協会は法人化したがる、だからといって任せる、下駄を預けるでは問題がある。心豊かな、文化的な市民を育てるために連携しながら一緒にやっていきたい。

(市から)

- ・文化協会の皆さんには、ご労苦をいただきながら文化祭などのイベントを運営されていることに感謝している。
- ・文化の香り高いまちづくりは市民憲章にもある。文化というものは目に見えるものではなく、人々の心の中に蓄えられていくものだと思う。そのための生涯学習、生涯教育であり、行政としては生涯学習課を中心としながら進めている。文化は人が生きていくうえで、潤滑油のようなものだと思っている。文化活動をする方々を応援していきたい。
- ・行政と各団体とが連携することは、非常に大事だと思う。生涯学習課においても、ピアノのコンサートを開催するなど、文化センターを中心としながら活動をしている。
- ・松崎小学校の学区では、学区のまとまりで自治組織を作り活動をしている。自分たちの地域は自分たちで作るという意識を持ってもらい、それに対して行政がどのような手助けができるのかを考えていかなければならない。市民、各種団体と協働でまちづくりを進めていきたい。

○上水道管の敷設について

(市民から)

岩館地区に3件の新築住宅が建ち、市の上水道を使いたいと相談したところ、1件あたり200万円ほど必要と言われた。あまりにも高額なことから、自分たちで井戸を掘って水を使っている。場所は集会所のすぐ近くであるが、集会所へは上水道が通っている。何件あれば水道管を通してくれるのか。10件など、まとまって多くの住宅が建てば、水道管を通してくれるか。

(市から)

- ・計画区域の中に入っているかどうかで違ってくるが、お話を伺ったところでは計画区域外に住宅が建設されていると思われる。すぐ近くまで上水道が来ているのだから、伸ばしてほしいとのことだと思うが、集会所で引いている水道管の口径は20ミリ～30ミリの細い管だと思う。その管から、さらに水道管を分岐させると水圧が下がってしまう。もし、新たに住宅に上水道を引くとなると、本管から持っていかざるを得ない。
- ・住宅団地開発時においても水道管の敷設は市では行わず、業者で行っている。
- ・上下水道課に、意見があったことを伝えておく。

○平川市の10年先のビジョンについて

(市民から)

平川市は、一次産業と弘前市のベットタウンのまちである。5年、10年経つとりんごは温暖化の影響で栽培は難しくなると思う。市としての10年先のビジョンはあるか。

10年先は年寄りも増えてくる。介護老人保健施設などを市内に建設する話はあるか。障がい者施設などは、東京のお金で県内に作られた施設もあると聞いたことがあるが、介護老人保健施設などもそのような動きはあるか。

(市から)

- ・市では、第2次平川市長期総合プランという今後10年間の計画を作り、まちづくりを進めている。その計画では、「あふれる笑顔 暮らし輝く 平川市」の将来像のもと、「魅力あるひとづくり」、「活力あるしごとづくり」、「住み続けたいまちづくり」という3つの基本目標、8つの基本政策、32の個別目標を掲げながら、まちづくりを進めている。
- ・温暖化が多少進んだとしても、りんご栽培ができなくなるということはないと思う。平川市では1次産業に就業人口の25パーセントを超える方が従事しており、農業が主産業のまちである。これからもりんごを中心とした1次産業と、勤めている人は弘前市などで就労をし、平川市内に居住するという形をとりながら、平川市は進んでいくのではないかと考えている。
- ・平川市に寄附いただいているふるさと納税では、返礼品の約9割がりんごである。昨年は1億7千万円ほど寄附をいただいたが、今年は現時点で3億円を超えている。いただいたお金を活用しながら、農家への支援、まちづくりに関するイベントへの支援、また子育て支援などを行っている。来年からは小学校にエアコンを設置したいと考えている。移住者への住宅支援、中学生までの医療費無料化、第2子からの保育料無料化など、こ

れらにもふるさと納税の寄附金を活用しながら、住みやすい平川市を作っていこうとのことで施策を行っている。

- ・高齢者の増加は大都市周辺でも今後、増えてくることだと思う。高齢者を地方に移住させ、地方で暮らしてもらうという政策もあるが、人口は増えたとしても高齢者への対応、また地元負担をどうするのかなどの課題がある。平川市では、この政策を取り入れるという考えは今のところない。
- ・行政が全部やるのではなく、自分たちの地域は自分たちで良くしていこうという意識を共有しながら、平川市のまちづくり、地域づくりを進めていきたい。
- ・高齢者の移住について、平川市では受け入れをするとか、施設を作るということは考えていない。国の施策では施設入所よりも、在宅ということで方向性が示されている。市としては、介護サービスはもちろんであるが、介護予防にも重点を置きながら施策を進めていくこととしている。町会側に説明させていただいている施策の一つに「生活支援体制整備事業」というものがある。地元団体、NPO、町会が主体となって、高齢者の方が集会所などに集まれる通いの場を作ろうということで進めている。寝たきりではなく、元気で健康に長生きできるような取り組みを進めている。

○高齢者の意識改革についての意見

(市民から)

高齢者自身の気持ちを変えていかなければならないと思う。何か問題が発生すると、民生委員に対し、どのようにしてくれるのかと話をされる。健康な高齢者を作ろうということで学習会をやっているが、地域の中でも高齢者の考え方を改めていかなければならない。

○市職員の対応について意見

(市民から)

市職員の表情が硬いと感じる。どこに行けばいいのかウロウロしている人がいれば、何かあったのかなという表情をしてほしい。電話対応は良くなってきていると思う。